

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	高等学校奨学金事業		
事業担当	学校教育部 学務課		
予算科目	01-100103-020000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等	平塚市教育委員会奨学金支給規則		
対象・受益者	高等学校に通学する生徒	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
有能であるにもかかわらず、経済的理由により、高等学校に就学することが困難な生徒に対して奨学金を支給することで、高等学校での就学の機会が与えられています。		有能であるにもかかわらず、経済的理由により高等学校に就学することが困難な生徒の進学機会を拡大するため、奨学金を支給します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	奨学金支給人数						単位	人
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		120	121	122	162	201	240	
	実績		120	121					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	奨学生卒業率						単位	%
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		100	100	100	100	100	100	
	実績		100	100					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
奨学金を支給し、経済的理由により高等学校に就学することが困難な生徒の進学機会を拡大しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	経済的理由により高等学校に就学することが困難な者に対して、就学の機会を与えることは必要です。 有能な高校生に就学の機会を与えていくためには、事業を継続して行なう必要があります。 目的に合った事業を実施しており、他の事業による代替は不可能です。 高等学校の授業料に見合う額を補助してしているので、奨学金の削減はすることができません。
今後に向けた課題の分析 景気の悪化により応募者が急増しています。平成21年度は募集41人に対して115人の応募があり、競争率は2.8倍で過去最高となりました。緊急対策として3年間予算を増やすことにより募集枠の拡大を図ります。						

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			奨学金の支給	奨学金の支給	奨学金の支給	奨学金の支給	奨学金の支給	奨学金の支給
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	15,057	15,246	15,372	20,412	25,326	30,240
事業費 (A)		0	15,057	15,246	15,372	20,412	25,326	30,240
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,518	2,518	2,507	2,507	2,507	2,507
フルコスト (A+B)		0	17,575	17,764	17,879	22,919	27,833	32,747

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 景気の悪化により応募者が急増しています。平成21年度は募集41人に対して115人の応募があり、競争率は2.8倍で過去最高となりました。緊急対策として3年間予算を増やすことにより募集枠の拡大を図ります。	
平成22年度の取組方針	
事務改善による事務の効率化を図ります。	
課長コメント	経済的理由により有能であるが就学が困難な生徒に就学の機会を与えることは必要です。特に昨今の社会経済情勢の悪化に伴い経済的困難者が増加しており、緊急対策として向う3年程度募集枠を拡大する必要があります。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		奨学金を支給し、経済的理由により高等学校に就学することが困難な生徒の進学機会を拡大した。	奨学金を支給し、経済的理由により高等学校に就学することが困難な生徒の進学機会を拡大しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		総合評価は高いので、今後も業務改善意識を持ち効率的で適正な事業実施に努める。	景気の悪化により応募者が急増しています。平成21年度は募集41人に対して115人の応募があり、競争率は2.8倍で過去最高となりました。緊急対策として3年間予算を増やすことにより募集枠の拡大を図ります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	拡大して継続
取組方針		事務改善による事務の効率化を図る。	事務改善による事務の効率化を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	サン・サンスタッフ派遣事業		
事業担当	学校教育部 教職員課		
予算科目	01-100103-080000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童・生徒、教職員	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
学校教育の場において、教育活動や読書活動が充実しています。		児童・生徒一人一人に応じた指導の充実や学習活動及び読書活動の充実を図るため、サン・サンスタッフ（学習支援補助員、学校司書）を派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	学習支援補助員配置人数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		94	104	114	100	108	114	
	実績		94	94					
活動指標②	指標名	学校司書配置人数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		12	20	28	28	36	43	
	実績		12	20					
成果指標①	指標名	サン・サンスタッフ派遣に係る学校評価（指導・支援力）						単位	点
	説明・算定式	「サン・サンスタッフは、指導・支援力があつた」とする評価（5段階）の、全小中学校の回答の平均							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		4.2	4.3	4.4	4.4	4.5	4.5	
	実績		4.2	4.4					
成果指標②	指標名	サン・サンスタッフ派遣に係る学校評価（教員との連携）						単位	点
	説明・算定式	「サン・サンスタッフと教員との連携ができた」とする評価（5段階）の、全小中学校の回答の平均							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		4.2	4.3	4.4	4.4	4.5	4.5	
	実績		4.2	4.1					
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
サン・サンスタッフ（学習支援補助員）を28小学校、15中学校に、サン・サンスタッフ（学校司書）を小学校20校に派遣し、支援活動や読書活動を充実することができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	サン・サンスタッフ（学習支援補助員）は、様々な課題を持つ児童・生徒への支援を行っており、また、サン・サンスタッフ（学校司書）は、「平塚市子ども読書推進計」と連動し、学校や地域からの要望が高いです。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	派遣により、様々な課題を持つ児童・生徒への適切かつきめ細かな対応が図られ、落ち着いた授業・学級形成が可能となり、また、学校図書館活動が充実しているため、地域・保護者・学校から高い評価を得ています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	様々な課題を持つ児童・生徒への適切かつきめ細かな支援を行っており、地域・保護者・学校からも要望が高いため、事業内容は妥当性が高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input checked="" type="checkbox"/> その他	学習支援や学校図書館活動推進のためのサン・サンスタッフ派遣のニーズは高く、更なる推進のため、増員により事業の効率性を高める必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

学校教育法の改正による小・中学校等における特別支援教育の推進等に伴い、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）派遣の重要性・必要性の増加が考えられます。
読書活動推進のためサン・サンスタッフ（学校司書）の必要性は高いためより多くの派遣が必要です。

3. 年度別事業内容・事業費

（単位：千円）

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			サン・サンスタッフ の派遣	サン・サンスタッフ の派遣	サン・サンスタッフ の派遣	サン・サンスタッフ の派遣	サン・サンスタッフ の派遣	サン・サンスタッフ の派遣
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	49,077	55,555	60,327	65,833	74,080	80,784
事業費 (A)		0	49,077	55,555	60,327	65,833	74,080	80,784
執行率 (%)		—	—	—				
内 訳	職員 (人)	0.00	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	3,357	3,357	3,343	3,343	3,343	3,343
フルコスト (A+B)		0	52,434	58,912	63,670	69,176	77,423	84,127

4. 今後の事業展開（担当課としての提案）

平成22年度の事業の方向性	
○現状の規模で継続 ●拡大して継続 ○縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<p><判断理由> 様々な課題を持つ児童・生徒へ適切かつきめ細かな対応を図るため、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）の増員が必要となる。また、学校図書館の環境整備や貸し出し体制の充実等により、読書への関心・学習に関する図書に関わりを深め、「平塚市子ども読書活動推進事業」と連携するため、サン・サンスタッフ（学校司書）の増員を進めます。</p>	
平成22年度の取組方針	
サン・サンスタッフ（学習支援補助員）は、小・中学校の現場の実態を把握し、有効的な人数配置とします。 サン・サンスタッフ（学校司書）は、社会教育課の子ども読書活動推進事業と連携を図った配置とします。	
課長コメント	学校教育法改正による小・中学校等における特別支援教育の推進や、さまざまな課題を抱える子どもたちに対し、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）派遣の重要性・必要性は学校だけでなく地域・保護者からも認められています。また、読書活動推進のためサン・サンスタッフ（学校司書）の必要性は高く、全小・中学校への配置を目指していきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		サン・サンスタッフ（学習支援補助員）を28小学校、15中学校に、サン・サンスタッフ（学校司書）を12校に派遣し、支援活動や読書活動を充実することができた。	サン・サンスタッフ（学習支援補助員）を28小学校、15中学校に、サン・サンスタッフ（学校司書）を小学校20校に派遣し、支援活動や読書活動を充実することができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		学校教育法の改正による小・中学校等における特別支援教育の推進等に伴い、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）派遣の重要性・必要性の増加が考えられる。 読書活動推進のためサン・サンスタッフ（学校司書）の必要性は高いためより多くの派遣が必要である。	学校教育法の改正による小・中学校等における特別支援教育の推進等に伴い、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）派遣の重要性・必要性の増加が考えられます。 読書活動推進のためサン・サンスタッフ（学校司書）の必要性は高いためより多くの派遣が必要です。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		サン・サンスタッフ（学習支援補助員）は、小・中学校の現場の実態を把握し、有効的な人数配置とする。 サン・サンスタッフ（学校司書）は、社会教育課の子ども読書活動推進事業と連携を図った配置とする。	サン・サンスタッフ（学習支援補助員）は、小・中学校の現場の実態を把握し、有効的な人数配置とします。 サン・サンスタッフ（学校司書）は、社会教育課の子ども読書活動推進事業と連携を図った配置とします。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	特色ある学校づくり推進事業						
事業担当	学校教育部 指導室						
予算科目	01-100103-110000			事業種類	○ ハード ● ソフト		
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち					
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ					
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する					
根拠法令等							
対象・受益者	小・中学校、児童・生徒			事業期間			
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】						
目的・目標				事業の概要			
各学校・園が地域に根ざし、幼児・児童・生徒の実態に即した教育目標を達成するために特色ある学校づくりを推進していくことで、幼児・児童・生徒の自ら学ぶ力や、心豊かに生きる力がはぐくまれています。				幼児・児童・生徒の生きる力をはぐくむ教育を展開するため、ふれあい教育、芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会などにより「特色ある学校づくり」を推進します。			

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	芸術鑑賞教室実施校数						単位	校
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		43	43	43	43	43	43	
	実績		43	43					
活動指標②	指標名	「生き方」を学ぶ講演会実施校数						単位	校
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		15	15	15	15	15	15	
	実績		15	15					
成果指標①	指標名	特色ある学校づくり推進事業に係る学校評価						単位	点
	説明・算定式	「総合的な学習の時間」についての評価（5段階）の、全小中学校の回答の平均							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		3.8	3.9	4	4	4	4	
	実績		3.8	3.8					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
学校や地域の特性を活かした教育課程を編成し、体験学習の充実を図る特色ある学校づくりを推進し、人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成に向け「生きる力」をはぐくみました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	各学校の教育目標の達成をめざし、地域の教育力をいかして、幼児・児童・生徒の自ら学ぶ力や心豊かに生きる力を育てるため、一層の推進が必要です。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	ふれあい教育や総合的な学習の時間の推進及び芸術鑑賞教室・生き方を学ぶ講演会開催の支援を行ったことにより、人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成が図られています。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	幼児・児童・生徒の「自ら学ぶ力」や「心豊かに生きる力」を育てるための各学校の主体的な取組みに対する支援を行い、人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成が図られています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	各学校が、子どもたちの実態や地域性、自然環境等を生かした内容を組み入れた、主体的な取組みが行えるよう適切な予算配分を図る必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

各学校が、子どもたちの実態や地域性、自然環境等を生かした内容を組み入れた、主体的な取組みが行えるよう予算措置を図る必要性があります。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施	芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施	芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施	芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施	芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施	芸術鑑賞教室、生き方を学ぶ講演会の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	44,341	42,892	37,800	37,800	37,800	37,800
事業費 (A)		0	44,341	42,892	37,800	37,800	37,800	37,800
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.85	0.85	0.90	0.90	0.90	0.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,133	7,133	7,521	7,521	7,521	7,521
フルコスト (A+B)		0	51,474	50,025	45,321	45,321	45,321	45,321

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 学校や地域の特性を活かした教育課程を編成し、体験学習の充実を図る特色ある学校づくりを推進していくことにより、人間性豊かな幼児・児童・生徒の「生きる力」をはぐくんでいきます。	
平成22年度の取組方針	
総合的な学習の時間やふれあい教育の推進、芸術鑑賞、校外学習、生き方を学ぶ講演会等を各小中学校、幼稚園で実施します。	
課長コメント	各学校が、子どもたちの実態や地域性、自然環境等を生かした内容を組み入れた主体的な取組みを行うことができるよう、予算措置を図るとともに、適切な予算配分を行いたいと考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		学校や地域の特性を活かした教育課程を編成し、体験学習の充実を図る特色ある学校づくりを推進し、人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成に向け「生きる力」をはぐくむことができた。	学校や地域の特性を活かした教育課程を編成し、体験学習の充実を図る特色ある学校づくりを推進し、人間性豊かな幼児・児童・生徒の育成に向け「生きる力」をはぐくみました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		各学校が、子どもたちの実態や地域性、自然環境等を生かした内容を組み入れた、主体的な取組みが行えるよう予算措置を図る必要がある。	各学校が、子どもたちの実態や地域性、自然環境等を生かした内容を組み入れた、主体的な取組みが行えるよう予算措置を図る必要性があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		総合的な学習の時間やふれあい教育の推進、芸術鑑賞、校外学習、生き方を学ぶ講演会等を各小中学校、幼稚園で実施する。	総合的な学習の時間やふれあい教育の推進、芸術鑑賞、校外学習、生き方を学ぶ講演会等を各小中学校、幼稚園で実施します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	外国人英語指導助手の学校訪問事業		
事業担当	学校教育部 指導室		
予算科目	01-100103-120000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	幼稚園、小・中学校の幼児、児童、生徒	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
幼児・児童が外国語にふれたり、外国の生活や文化に親しみをもっています。生徒の英語に対する興味関心が高まり、コミュニケーション能力の基礎が培われています。		児童・生徒の英語力の向上や国際理解を深めるため、外国人英語指導助手が学校を訪問し、担任との共同の授業を行います。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	外国人英語指導助手数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		6	10	12	10	10	10	
	実績		6	7					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	各学校・園への延べ訪問回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1,128	1,880	2,256	1,800	1,800	1,800	
	実績		1,110	1,295					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	②：若干遅れている								
	遅れている理由	外国人英語指導助手数及び訪問回数の増加が不十分でした。							
平成20年度の主な取組と成果									
外国人英語指導助手とともに指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ態度の育成を図ることができました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	中学校における英語教育、小学校・幼稚園における英語活動に関する関心は高く、告示された新学習指導要領においても、今後の学校教育において大変重要な位置づけとされています。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	外国人英語指導助手とともに指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語教育の推進を図っています。事業の継続によりさらに英語や外国の生活・文化に親しむ習慣形成を図ることができます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	各中学校における12時間程度の授業と幼稚園・小学校における英語活動を通して、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ習慣形成を図ることができます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	年間の訪問計画を立てるとともに、訪問する幼稚園や小・中学校間の訪問計画の調整等により、効率化が図られています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

幼・小・中学校における英語教育に対する関心は高く、また、告示された新学習指導要領では、中学校における外国語の授業時数の増加や小学校高学年における外国語活動の導入が示されており、今後も、外国人英語指導助手に対するニーズは高まると考えられます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			外国人英語指導助手による学校訪問	外国人英語指導助手による学校訪問	外国人英語指導助手による学校訪問	外国人英語指導助手による学校訪問	外国人英語指導助手による学校訪問	外国人英語指導助手による学校訪問
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	26,076	29,067	38,220	41,553	41,553	41,553
事業費 (A)		0	26,076	29,067	38,220	41,553	41,553	41,553
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.50	0.50	0.55	0.55	0.55	0.55
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,196	4,196	4,596	4,596	4,596	4,596
フルコスト (A+B)		0	30,272	33,263	42,816	46,149	46,149	46,149

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 中学校における英語教育、小学校、幼稚園における英語活動に関する関心は高く、また、告示された新学習指導要領に示されている内容により、今後、外国人英語指導助手の増員を含めた事業の充実を図ります。	
平成22年度取組方針	
外国人英語指導助手とともに指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ習慣形成を図ることにより、コミュニケーション能力の基礎を培います。	
課長コメント	今後、中学校における英語の授業数の増加や、小学校における外国語活動の導入等が移行期間を経て実施されます。市民ニーズも含め、外国人英語指導助手の増員を図るとともに、外国人英語指導助手と指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ習慣形成を図る必要性があると考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	②：若干遅れている
主な取組と成果		中学校では、外国人講師による指導を行うことで、英語に対する生徒の興味・関心を高め、英語に親しむ習慣形成を図ることができた。幼稚園、小学校では、要請に応じ外国人講師が訪問したことで、英語活動の推進を図ることができた。	外国人英語指導助手とともに指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ態度の育成を図ることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		中学校における英語教育、小学校、幼稚園における英語活動に関する関心は高く、また、告示された新学習指導要領では、中学校における授業時数増や小学校への英語活動の導入が示されており、今後、外国人英語指導助手の増加が不可欠である。	幼・小・中学校における英語教育に対する関心は高く、また、告示された新学習指導要領では、中学校における外国語の授業時数の増加や小学校高学年における外国語活動の導入が示されており、今後も、外国人英語指導助手に対するニーズは高まると考えられます。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		外国人英語指導助手の増員を図ることにより、幼児・児童の英語活動の充実と生徒の英語への興味・関心の向上を図ることで、コミュニケーション能力の基礎を培う。	外国人英語指導助手とともに指導を行うことで、幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ習慣形成を図ることにより、コミュニケーション能力の基礎を培います。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	日本語指導協力者派遣事業		
事業担当	学校教育部 指導室		
予算科目	01-100103-130000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	小学校・中学校、児童・生徒及び保護者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
日本語指導を必要とする児童・生徒が、言語面での支援を受けることにより、日本での生活に適應しています。		日本語の指導が必要な児童・生徒に対して日本語指導、母語指導、生活適應指導を行うため、希望に応じて日本語指導協力者を派遣します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	日本語指導協力者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		20	20	20	20	20	20	
	実績		21	22					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	日本語指導協力者訪問時間数						単位	時間
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		2,650	2,650	2,650	2,800	2,800	2,800	
	実績		2,643	2,794					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
日本語指導の必要な外国につながるのある児童・生徒に対して、日本語指導協力者の派遣を行い、日本語の習得や学校生活への適應を図ることができました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	現在、小・中学校には、約150名の日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍しており、学習面・生活面等の学校生活全般において指導協力の要請がありあます。
有効性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	日本語指導協力の必要な外国人児童・生徒約150名に対し、小・中学校20校に延べ約50名の講師を派遣し、当該児童・生徒の学校生活への適応を図るとともに、保護者への対応を行っています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	他課との連携により、派遣する日本語指導協力の確保を行っています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	今後に向けた課題の分析 現在、平塚には多くの日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍しており、在籍数及び言語の多様化により、指導協力の派遣回数等が不足しています。			

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			日本語指導協力者の派遣	日本語指導協力者の派遣	日本語指導協力者の派遣	日本語指導協力者の派遣	日本語指導協力者の派遣	日本語指導協力者の派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	8,000	8,454	8,000	8,450	8,450	8,450
事業費(A)		0	8,000	8,454	8,000	8,450	8,450	8,450
執行率(%)		—	—	—				
内訳	職員(人)	0.00	0.50	0.50	0.40	0.40	0.40	0.40
	再任用(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費(B)		0	4,196	4,196	3,343	3,343	3,343	3,343
フルコスト(A+B)		0	12,196	12,650	11,343	11,793	11,793	11,793

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 現在、平塚には多くの日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍しており、在籍数及び言語の多様化に対する指導協力の派遣回数等が不足しています。そのため、当該児童・生徒及び在籍する学校のニーズに対応でき得る日本語指導協力の人材確保と派遣回数増を図ります。	
平成22年度の取組方針 日本語指導を必要とする児童・生徒のニーズに適した指導協力の派遣回数及び対応できる多数の言語の指導協力を確保し、事業の充実を図ります。	
課長コメント	日本語指導を必要とする児童・生徒のニーズに適した指導協力の派遣回数及び対応できる多数の言語の指導者を確保するための事業の拡大が必要であると考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		日本語指導の必要な外国人児童・生徒に対して、日本語指導協力者の派遣を行い、日本での学校生活に適応させることができた。	日本語指導の必要な外国につながる児童・生徒に対して、日本語指導協力者の派遣を行い、日本語の習得や学校生活への適応を図ることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		現在、平塚には多くの日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍しており、在籍数及び言語数に対する指導協力者の派遣回数等が不足している。	現在、平塚には多くの日本語指導を必要とする児童・生徒が在籍しており、在籍数及び言語の多様化により、指導協力者の派遣回数等が不足しています。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		日本語指導を必要とする児童・生徒のニーズに適した指導協力者の派遣回数及び対応できる多数の言語の指導者を確保したい。	日本語指導を必要とする児童・生徒のニーズに適した指導協力者の派遣回数及び対応できる多数の言語の指導者を確保し、事業の充実を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	学習資料発行事業		
事業担当	学校教育部 教育研究所		
予算科目	01-100105-010000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	01	①〈人間力〉 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ	
	05	5 基礎的な学力を身につけ、個性を伸ばす教育を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童、教職員	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
児童が、副読本「わたしたちの平塚」を使って郷土の歴史・地理・産物などを学ぶことにより、郷土平塚への理解と誇り、そして愛情をはぐくんでいます。		郷土平塚への理解と誇り、そして愛情をはぐくむため、小学校3、4年生用の社会科副読本を発行します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	学習資料発行部数						単位	部
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		2,700	2,700	5,000				
	実績		2,700	2,700					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	授業で学習資料が活用されている割合						単位	%
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		100	100	100				
	実績		100	100					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
平成21年度の全面改訂版「わたしたちの平塚」の作成に向けて「平塚らしさ」とともに「子どもの目線」に立った内容検討を行い、新学習指導要領に則り、教科書と併用できる体裁に仕上げるよう確認しました。平成20年度作成分は一部改定をし、2,700部作成、各小学校の新3年生用として配布しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	「わたしたちの平塚」は市内小学校3、4年生の社会科副読本として利用されており、公平性の確保、継続性の確保の面から、市で作成する必要があります。
有効性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	「わたしたちの平塚」は郷土平塚への理解と誇りそして愛情をはぐくむために小学校3、4年生の社会科授業で利用されており、継続的に発行していくことでその目的・目標が達成されます。	● 高 ○ 低
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	市内全小学校で3、4年生の社会科副読本「わたしたちの平塚」を使用して、授業が行われています。内容も平塚らしさを前面に出し、子どもの目線を大事にして、小学校教諭が授業で使いやすいものを作成しています。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	原稿は市内小学校教諭が作成しており、印刷のみ外部へ発注し、コスト削減を図っています。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析				
平成21年度に全面改訂版を作成していますので、その内容を検討し、統計資料等の差し替え等をして、学習資料の作成をします。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			副読本「わたしたちの平塚」の発行	副読本「わたしたちの平塚」の発行	副読本「わたしたちの平塚」全面改訂版発行	副読本「わたしたちの平塚」の発行		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,860	1,860	5,250	2,100	0	0
事業費 (A)		0	1,860	1,860	5,250	2,100	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.35	0.35	0.35	0.35	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,937	2,937	2,925	2,925	0	0
フルコスト (A+B)		0	4,797	4,797	8,175	5,025	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
○現状の規模で継続 ○拡大して継続 ●縮小して継続 ○廃止 ○休止 ○終了 ○他事業と統合	
<判断理由> 平成21年度に全面改訂版の作成をしているので、その内容を検討し、統計資料等の差し替えをします。	
平成22年度の実行方針	
実施計画に位置づけず、全面改訂版の内容検討、統計資料等の差替えを行っていきます。	
課長コメント	平成21年度の全面改訂版の作成に伴い、指導用資料の作成の必要があると考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		平成21年度の全面改訂版「わたしたちの平塚」の作成に向けて「平塚らしさ」とともに「子どもの目線」に立った内容検討を行い、新学習指導要領に則り、教科書と併用できる体裁に仕上げるよう確認した。 平成19年度作成分は一部改定をし、2700部作成、各小学校の新3年生用として配布した。	平成21年度の全面改訂版「わたしたちの平塚」の作成に向けて「平塚らしさ」とともに「子どもの目線」に立った内容検討を行い、新学習指導要領に則り、教科書と併用できる体裁に仕上げるよう確認しました。 平成20年度作成分は一部改定をし、2,700部作成、各小学校の新3年生用として配布しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		平成21年度に全面改訂版を作成する。原稿準備と平行して予算見積、契約準備がすみやかに進めるようにする。	平成21年度に全面改訂版を作成していますので、その内容を検討し、統計資料等の差し替え等をして、学習資料の作成をします。
事業の方向性	—	拡大して継続	縮小して継続
取組方針		例年より早めの印刷発注をし、校正・出来上がりの確認を適正に行う。新3年生だけでなく、新4年生にも配布する。	実施計画に位置づけず、全面改訂版の内容検討、統計資料等の差替えを行っていきます。
事業区分	—	実施計画事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。